



2



1



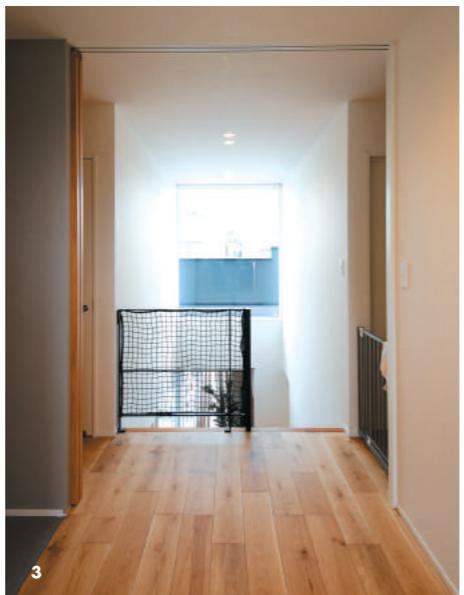
「暮らしを豊かにする庭」

木の素材感のやさしさや温もりを感じるインテリアに、中庭からの風や吹抜けが落とす光、アプローチや前庭、借景の木々など豊かな緑が調和しています。

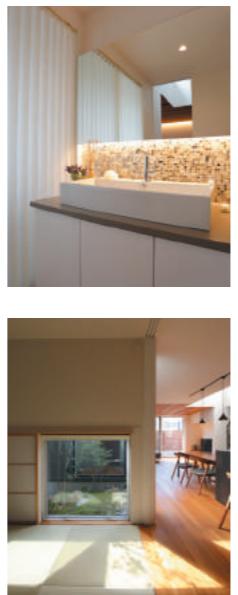
各部屋に光と風を届けるだけでなく、開放感や移ろい季節の趣を感じさせ、住み手に観る愉しみや癒しも与えてくれるコートハウス。その一番の魅力はプライバシーを守りながら外部(自然)とつながること。

隣家や通行人からの視線を気にすることなくカーテンを開け、雨上がりの鮮やかな葉の色や風にそよぐ枝葉の様、草花の変化などを常に身近に感じることができます。

機能性や実用性だけではなく、じつした日々の暮らしが住み手を心身ともに健やかに育んでもくれるのであります。

Case 01
04

3



3.階段上の吹抜から窓越しに見える外の景色へと一直線に視線が抜ける心地良い空間。



DATA
敷地面積 230.43m² / 延床面積 127.73m²
(1階床面積 72.87m² / 2階床面積 54.86m²)

Case 01
03

土間の在る
暮らし

加古川市



1.LDKの床はナラの無垢材をヘリンボーン貼に。2.実験用シンクを利用したインダストリアル感のある洗面台。3.コンクリートの壁で囲ったアイランド型キッチン。背面にはショップのディスプレイのような棚と収納を造り付けに。床はモルタル仕上げで空間にメリハリを。



以前ネイルサロンで働いていた経験を活かして、将来自宅で仕事ができるスペースとしても。

土間の在る暮らしが住み手の心にゆとりをもたらします。



三輪車や縄跳びの練習したり、夏場は閉口部を全開にしてビニールプールで水遊び、昔路地でよく見かけたような白線を土間に描いて「けんけんば」遊ぶのもいいかもしません。



壁面に自在にフックを付けることができる有孔ボードを設置。お気に入りのものや思い出のものを飾るディスプレイスペースでもあり、日用品の収納スペースにもなります。家族の成長に伴いこれから増えていく思い出や新たに始める趣味のものなどを、その時々の気分によってレイアウトを変えるのも楽しみのひとつです。



DATA
敷地面積 132.25m² / 延床面積 109.35m²
(1階床面積 59.00m² / 2階床面積 50.35m²)



「ヴィラのような 空間で過ごす贅沢」

1階を主な居住スペースとして活用したいという思いから「大きなカウチソファとラウンジチェアが置けるくらい」とにかく広いリビングにしたかった」というK様。木造建築では難しい、柱を取り去った大空間を、特殊な金物工法で強度を保つことにより実現。鉄製のストリップ階段の両サイドに配置した篠(トウ)を巻いた丸柱は、偉大な建築家アルト氏へのオマージュ。チークのフローリングは家具との相性もよく、落ち着いた大人のリビングを演出します。リビング上部の吹抜けも、廊下の手すりを格子にすることで圧迫感を解消しただけでなく、風通りのよい空間に仕上げました。

料亭を思わせる厳かなアプローチを抜け、木製の玄関扉を開けると、開放的な空間スペースに置かれたアーティスティックなイスとアーバン・ウォールの絵が迎えてくれます。その向こうに見えるリビングからは人のぬくもりが感じられ、帰宅した家族も訪れたゲストも安らぎ気分になります。家族が忙しい朝も同時に使えるように、洗面台にはボウルを2つ並べるなど、別荘やホテルを思わせるような意匠が住まいの隅々に散りばめられています。

「引っ越しして半年、家でくつろぎたいと思

うことが増えて、実際休日の過ごし方が変

わりました。」とK様。住まいでありながら、

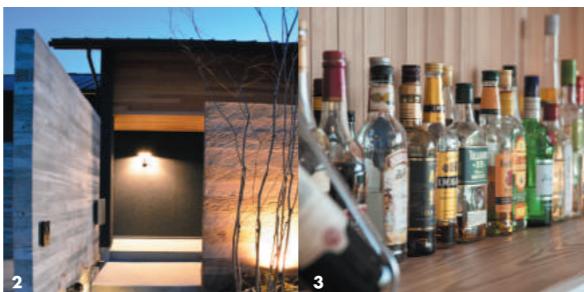
ヴィラのようなことが非日常的な雰囲気

を感じられることが、仕事で多忙なK様に

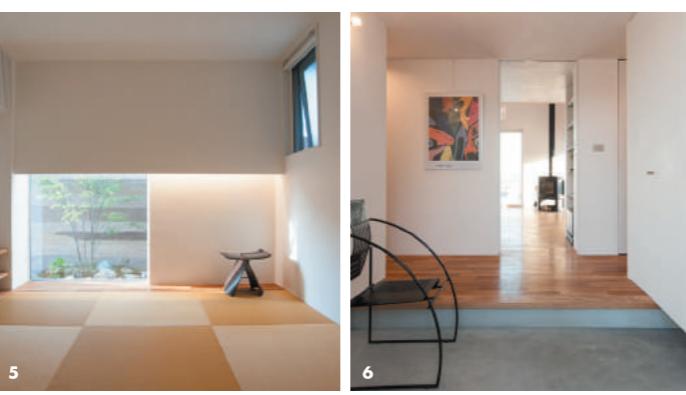
といつも心地よいとなっています。



1.ウッドデッキ越しに望む豊かな木々は、四季の移ろいとともに色とりどりに変化します。左遠方に見えるのは明石海峡大橋。
2.高級料亭を思わせる植栽と光が織りなす和のアプローチ。
3.キッチン横のカウンターにはお気に入りのお酒が並ぶ。



4.プライバシーを守りながらもすっきりとした印象の外観。5.地窓から版築風の外構壁と植栽を望む和室は、陽光を抑えた趣のある空間です。6.アンディ・ウォーホルの作品が映える約6帖の玄関からは、リビングの暖炉が見えます。



DATA
敷地面積 602.85m² / 延床面積 144.37m²
(1階床面積 114.27m² / 2階床面積 30.10m²)